

製

部



ヤ

獨立混成旅團第五号

昭和二十年自八月十五日
至十月三十一日

大東亞戰爭衛生史編纂資料月報

獨立混成第二十二旅團



1486

大東亞戰爭衛生史編纂資料月報

自八月十五日
至十月三十一日

獨立混成第二十二旅團

一、兵團行動の概要

兵團八月十五日全縣黃沙舖より出発零陵貴陽を経テ八月
二十七日衡陽ニ到着ス次テ粵漢線ニ沿ヒテ長沙ニ至リ岳州
東方ヨリ咸寧ニ入り十月七日武六對岸碼頭鎮ニ到着兵器
器械ノ接收ヲ為シ武裝ヲ解除ス

十月十日ヨリ三日間揚子江ノ渡河ヲ實施シ武六東方地区ニ
分散駐屯ス引續キ中國側ヨリ人員馬匹ノ臭呼ヲ受ケ
馬匹ノ接收等ヲ毎日施セリ以テ末現地自活練成教育職業
補遺教育等ニ邁進セリ

二、衛生勤務ノ概要

(一)患者收容ノ状況(行軍間状況)
停戦ト同時ニ第五患者輸送部一部既屬ヲ解カレ以テ末行

軍間全ク爲生機闇ク有セス適時司令ニ於テ患者救護班ヲ編成シ弱兵行軍不能者ヲ集メ自勤車輸送列車輸送(衡陽長沙間)ヲ實施セリ車輛逐々損耗セシレ特ニ長沙ニ於テ入院停止セラレシ爲長沙以後ハ殆ト下衛生機關ニ患者ヲ託スルマナク各部隊共自隊ニ於テ救護班ヲ編成シ行軍ヲ續行シ来レリ

*咸寧ニ於テ患者收容セシラス困却セリ

武六集結迄ニ前送入院スル病院所在地通過時入院セシメタル患者ハ約二五〇名ナリ

武六ニ到着ト同時ニ九江ニ輸送入院セシメタル患者ハ約四〇名ナリ

(2) 集結後ニ於ル状況

兵團、武六ニ集結スルヤ第一、十七兵站病院一部、配屬シ

受テ十月二十三日患者齋農食所ヲ開設シ患者収容ニ任セ

(納谷典・京東)

レム

(3) 患者発生状況

終戦ニ伴ヒ夜行軍ハ晝行軍トナリ氣候猶高温ニシテ引續ク給養ノ不良ト連日、行軍トニヨリ當初相當ノ患者発生セルモ衡陽長沙地区ニ於テ適宜弱兵ヲ選定シテ処理入院又ハ前送セルヲ以テ以來患者ノ発生ハ少数ニ止ルヲ得タリ

患者有ハマリアレ胃腸疾患脚氣營養失調症ヲ最多トス終戦以來集結道ノ入院患者ハ約三〇〇名ナリ

三、給養ノ状況

停戦後ノ行軍間ニ於テハ各部隊共經理官先行シ適所ニ糧秣交付所ヲ開設シ部隊通過ノ際約五日分ツ、ヲ交付兼行セシメ概ネ順調ニ進歩セシタルモ副食ハ充分ト認メ難ク時ニ携帶口糧^{野菜、微菜モ甚}乙ニヨリシ場合アリ

停戦前ノ如クナラス主トシテ南京ノ副食トセリ

武六集結後ハ中國側ヨリ主食セハ〇瓦副食モ規定
ニヨル交付ヲ受ケ兵團ニ於テ主食六〇〇瓦トシテ餘剩ハ後日ノ
為蓄積スル如ク定メラレタリ

集結後ノ給與ハ行軍間ニ比シ著ク良好トナレリ

炊事モ釜炊事器具ノ不備ニヨリ合同炊事ハ困難ナルモ
部隊ニヨリ逐事^次合同炊事制ヲトリツキアリ

四、給水ノ狀況

武六地区ハ一般ニ井水少ク人口池 池水ヲ利用ニアリテ清水ヲ

得難シ各部隊兵各部落毎ニ洗濯^器用池 飲料水用池

雑用水池等ニ使用区分ヲ明確ニシ使用スル如ク定メアリ

ドラム罐等濾過装置用具ノ不足ノ為ニ完全ナル濾過

装置ハ設置シ難キモ各隊各々工夫ヲ新タシ以テ簡易ナル

濾過装置ヲ作製シテ現ニ濾水器ヲ使用シタル司令部

ノミニナリ

(納谷典・京東)

五、被服ノ状況

武六集結前主トシテ威遠等ニ於テ冬衣袴各外套長ノ交付ヲ
受ケ武六集結後逐車 毛布外套長ノ交付アリテ二人ニ付毛
布一枚 外套長ハ三人ニ一枚ノ割トナレリ

寒氣増々加ハラントスル折柄防寒ニ對シ遺憾ノ處多キ
モ毛布外套長ノ追加交付ハ兵團ニ於テ計畫中ナリ

六、傳染病發生ノ状況

停戦後行軍間ニ發生セル伝染病ハ赤痢ヨリ第一トス赤痢
患者ノタメ入院セルモノ武六集結迄約五〇名ナリ

集結後細菌性赤痢ノ發生ハ殆トモ見サルニ至レルモ行
軍間ヨリ惟患シアリタルアメーバ赤痢患者ハ集結後在
サ再治療セスタメニ入院セルモノ約一〇名ナリ

武六集結ト同時ニ独歩古六大隊砲隊ヨリ回歸熱發生
内務班ノ隔離不徹底ナリタメ十月月間同隊ヨリ眞性

六名疑似三名、悪心者ヲ出セリ

行軍間ヨリ衣虱、発生多クカリシモ除虱意、如クナラス駐留
ト同時ニ爆發的發生ヲ見タシモノト思考セリ

七、衛生材料接收ニ関スル事項

武穴集結ニ先立咸寧ヨリ軍医部員一(毛利中尉)

九江ニ先行シ接收業務カニ當リ九江ニ於テ兵團ト連絡ヲ

トリ第一集團軍迄トノ間ニ異状ナク接收ヲ完了セリ

右ニテ兵團保有ノ衛生材料ハ集結期間兵團ニ於テ猶用

スルコトナシ乗船ニ際シ現在地移動ノ際ハ届出器械並

ニ残余衛生材料ヲ九江第一集團軍迄運送ニ輸送返納

スル如ク定メタリ

(納谷典・京東)

1492